

懇談会「米国のサイバーセキュリティの現状と課題」

期 間：2017年5月24日(水)

場 所：経団連会館

来 賓：ジョエル・ブレナー 米国国家安全保障局(NSA)元監察総官

経済広報センターは5月24日、米国におけるサイバーセキュリティへの取り組み状況と課題に関する懇談会を開催し、米国国家安全保障局(NSA)元監察総官でサイバーセキュリティの専門家であるジョエル・ブレナー氏から説明を聞いた。

まず、ブレナー氏は、ここ数年、世界各国で発電施設等のインフラをねらったサイバー攻撃が頻発しており、今後もこの傾向は続くとした上で、サイバーセキュリティのレベル向上は国際的な重要課題となっていると強調した。

また、米マサチューセッツ工科大学(MIT)で、同氏が主導し2年間にわたり進められてきた重要インフラ(電力、通信、金融、エネルギー)のサイバーセキュリティ強化に向けたワークショップの概要を紹介。人工知能(AI)を活用したサイバー攻撃の自動検知システムやセキュリティ機能の高いオペレーションシステム(OS)など、より安全な技術の普及に政府は税制面を含め、積極的な役割を果たすべきだと指摘するとともに、政策立案に際しては民間企業の参画や協力が重要であると説明した。



トランプ大統領が、5月11日にサイバーセキュリティに関する大統領令に署名し、連邦政府機関に対して90日以内にサイバーセキュリティに関する実行計画を準備することを指示したことについて、ブレナー氏は、包括的な取り組みが期待できると好意的に評価する声が多いと述べた。

以 上